

審議会委員・専門委員アンケート調査結果

○対象及び回答数

総合計画審議会委員・専門委員 108名（総合、活力、未来、安心、青年委員会）

回答数 98名（回答率90.7%）

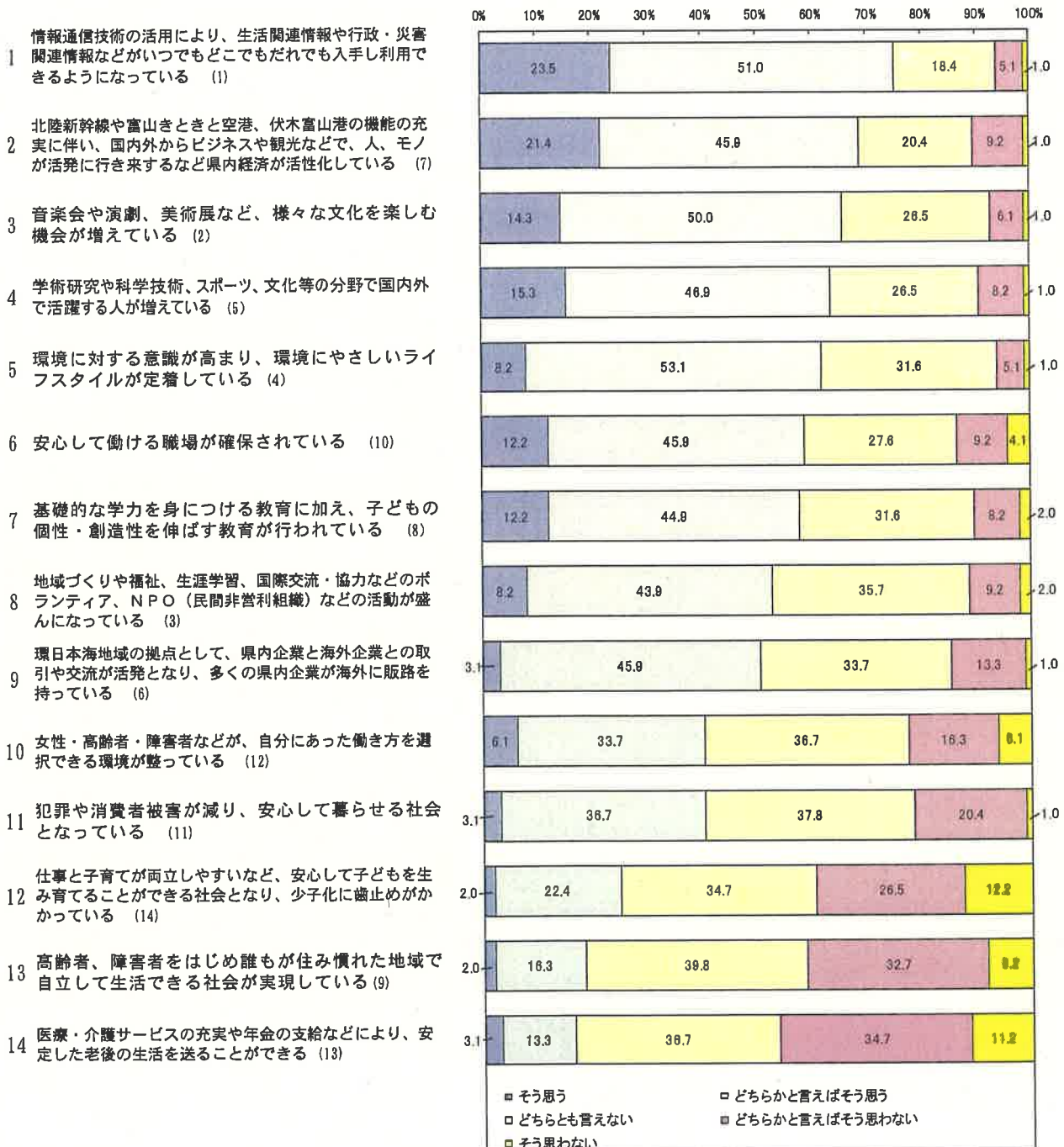
今後10年の県づくり

1. 10年後の県民生活はどのようになるとお考えか

情報化の更なる進展(74.5%)や北陸新幹線等による県内経済の活性化(67.3%)が上位となっている。一方で老後の生活や住み慣れた地域で自立して生活できることへの不安感が強い。

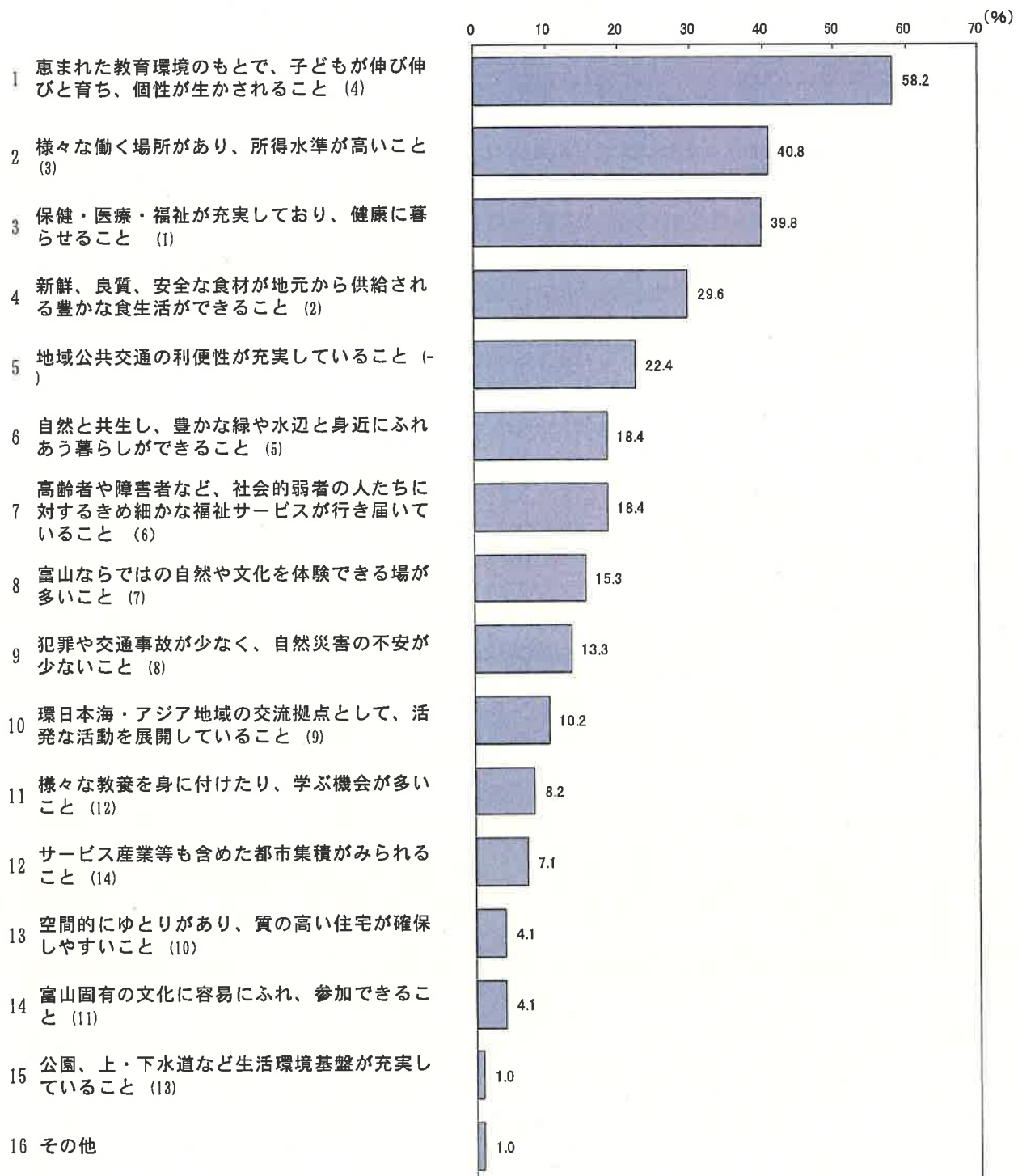
※下記 () は H22 の前回有識者アンケートの順位

順位は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択数



2. 富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要か (3つ選択)

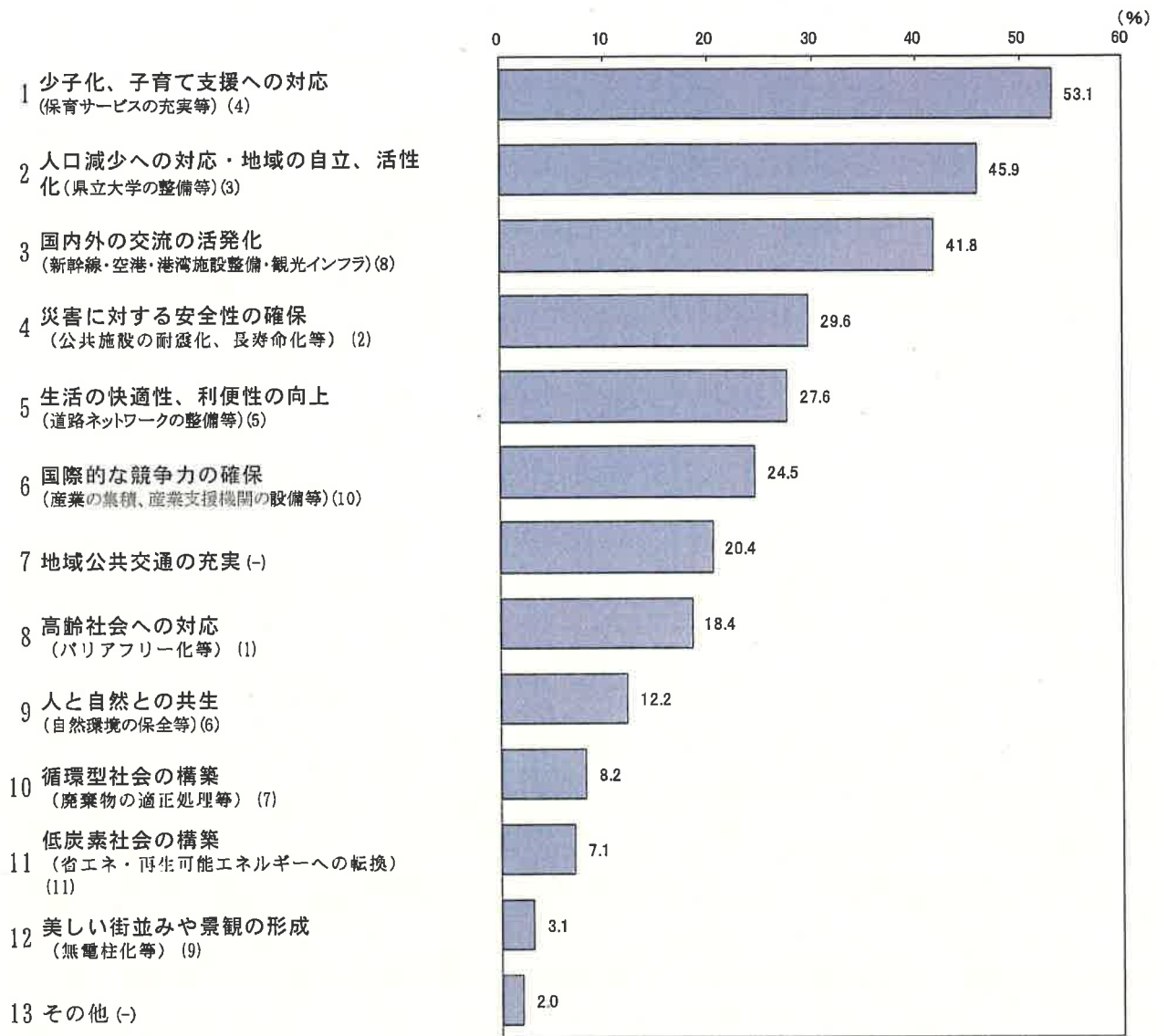
「恵まれた教育環境のもとで、子どもが伸び伸びと育ち、個性が活かされること」(58.2%)、「様々な働く場所があり、所得水準が高いこと」(40.8%)、「保健・医療・福祉が充実しており、健康に暮らせること」(39.8%)の順となっている。



※その他への記載：若者の県内定着のため、企業の雇用環境の改善

3. 県土づくり(社会資本整備)施策としてどのような成果を重視して整備を進めるべきか (3つ選択)

「少子化、子育て支援への対応」(53.1%)、「人口減少への対応・地域の自立、活性化」(45.9%)
 「国内外の交流の活発化」(41.8%)、の順となっている。

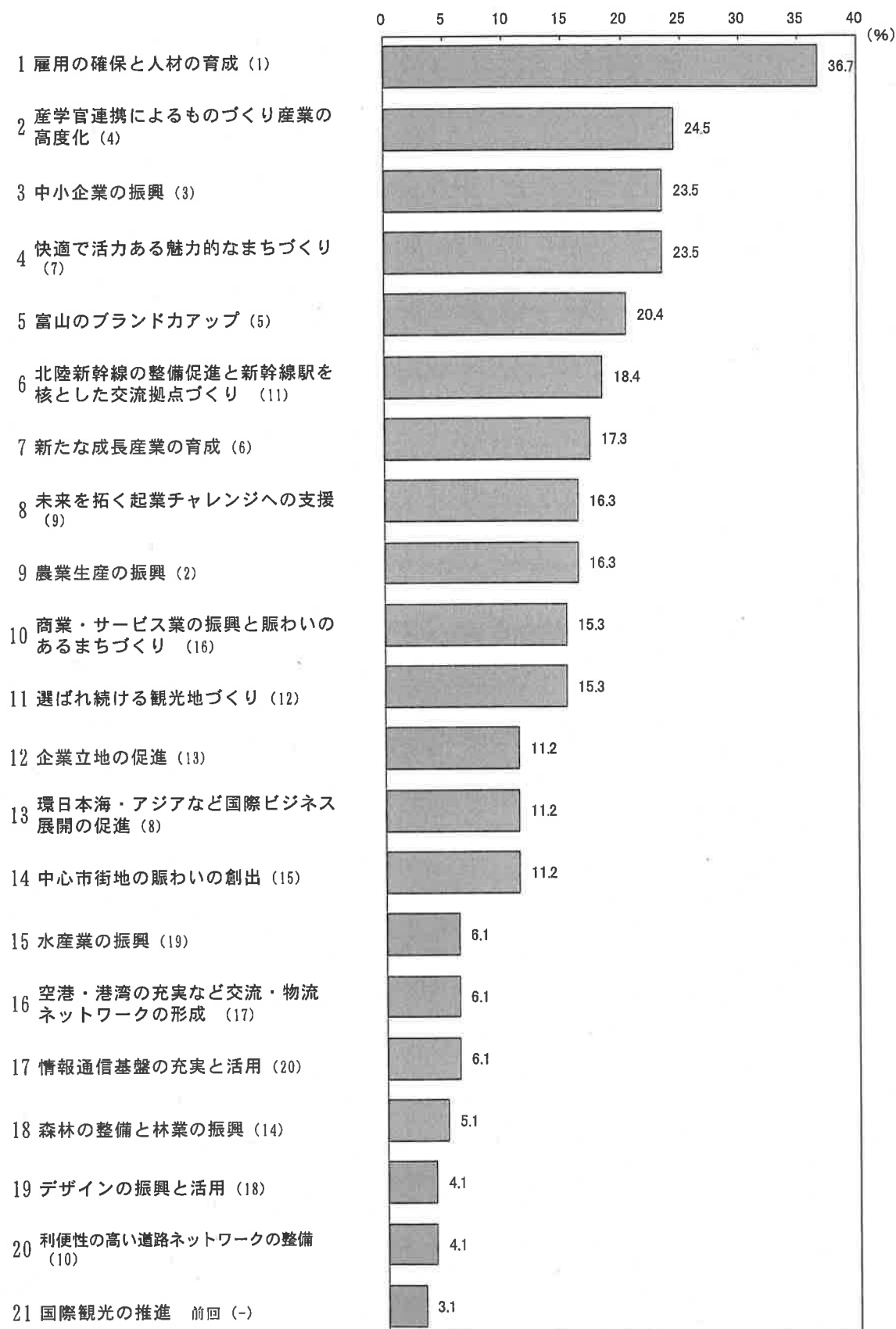


※その他への記載 地域商店の活性化、チェーン店に頼らない街

4. 今後10年間を通して特に重点的に推進していくことが求められる施策は何か

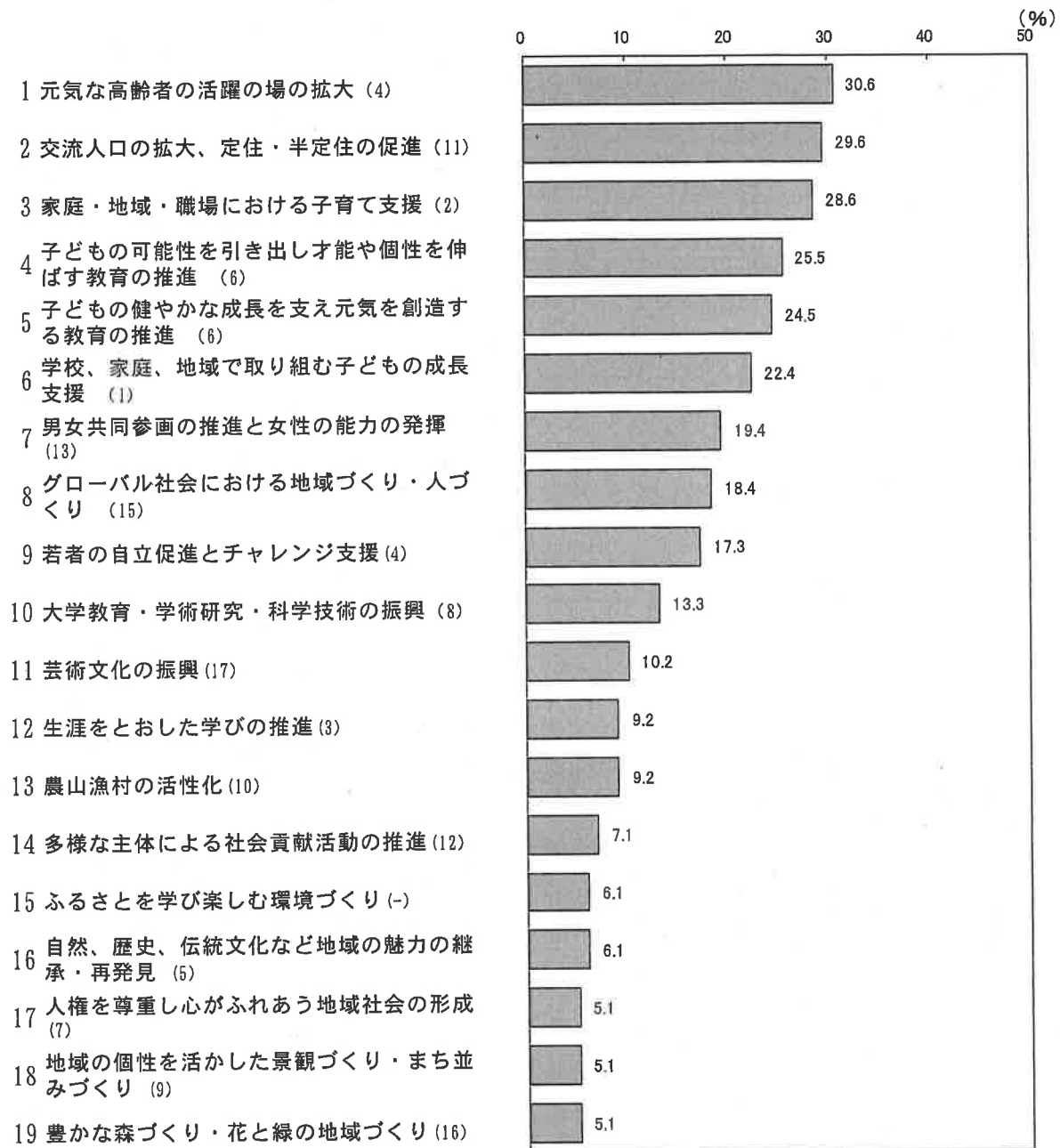
(1) 活力 (3つ選択)

活力分野では、「雇用の確保と人材の育成」(36.7%)、「産学官連携によるものづくり産業の高度化」(24.5%)、「中小企業の振興」(23.5%)の順である。



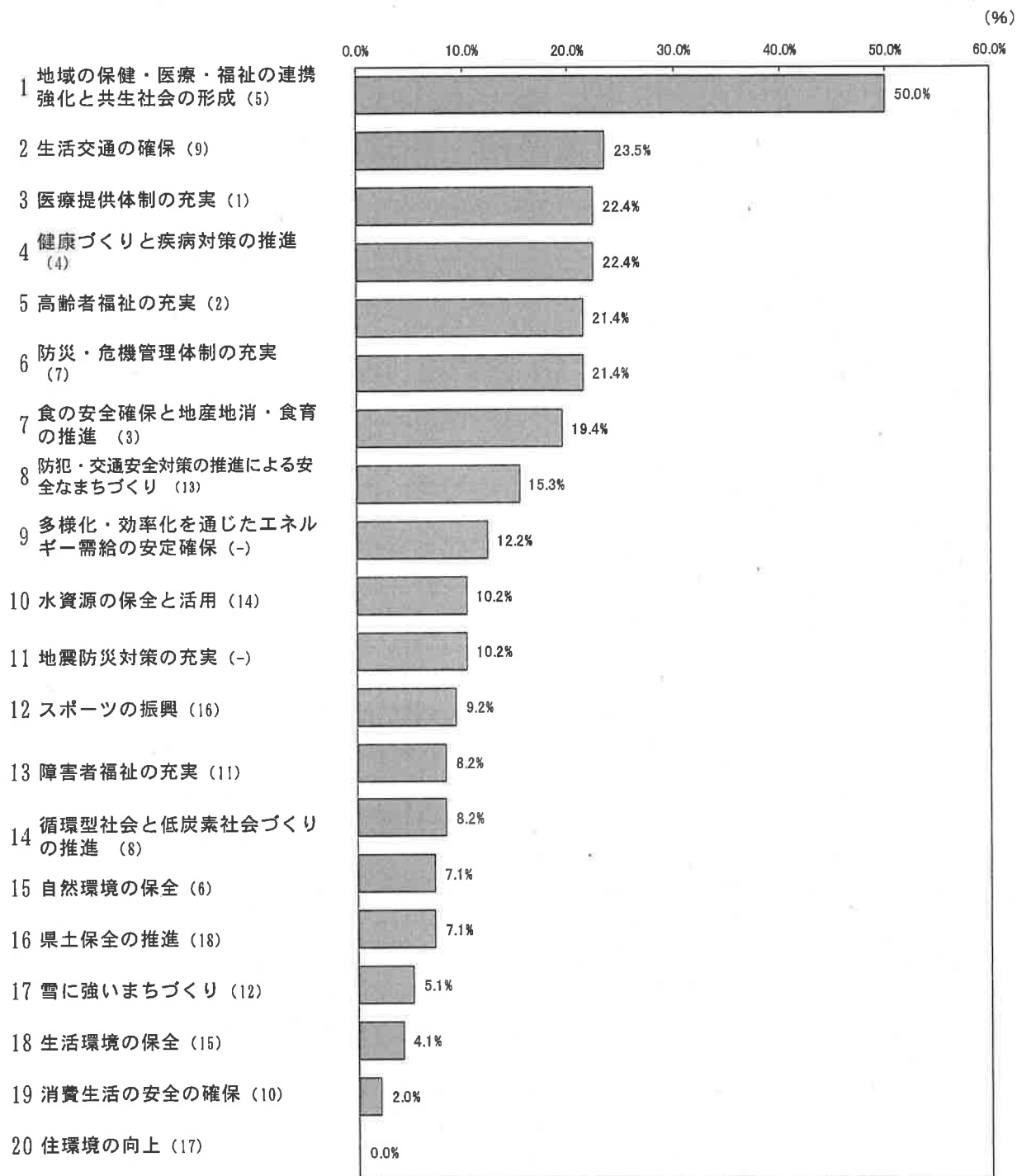
(2) 未来 (3つ選択)

未来分野では、「元気な高齢者の活躍の場の拡大」(30.6%)、「交流人口の拡大、定住・半定住の促進」(29.6%)、「家庭・地域・職場における子育て支援」(28.6%)の順である。



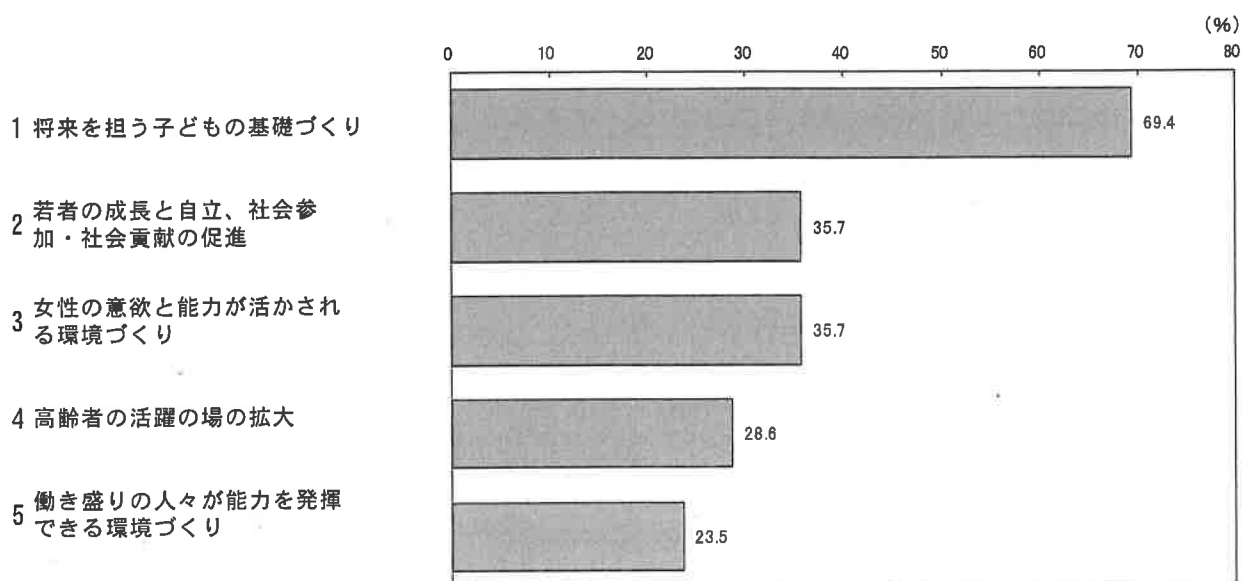
(3) 安心 (3つ選択)

安心分野では、「地域の保健・医療・福祉の連携強化と共生社会の形成」(50.0%)、「生活交通の確保」(23.5%)、「医療提供体制の充実」及び「健康づくりと疾病対策の推進」(22.4%)の順である。



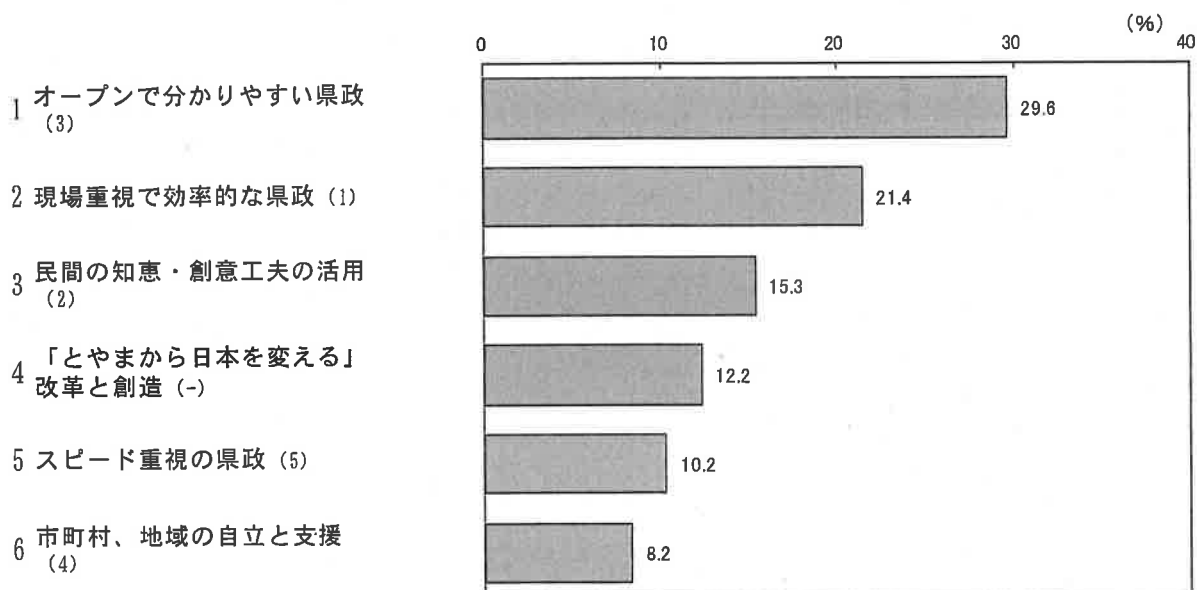
(4) 人づくり (2つ選択)

人づくりについては、「将来を担う子どもの基礎づくり」(69.4%)、「若者の成長と自立、社会参加・社会貢献の促進」及び「女性の意欲と能力が活かされる環境づくり」(35.7%)の順である。



(5) 行財政改革の推進 (1つ選択)

行財政改革の分野では、「オープンで分かりやすい県政」(29.6%)、「現場重視で効率的な県政」(21.4%)、「民間の知恵・創意工夫の活用」(15.3%)となっている。



アンケート自由意見（抜粋）について

活力	
2.	<p>医療・バイオ関連産業の育成など、世界の「薬都とやま」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくりの伝統を医療、福祉分野で活かし、ICTなど新しい技術も加えた新たな成長産業の創出
3.	<p>産官学の連携によるものづくり産業の高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産官学連携によるものづくり産業の相互支援の必要性を感じる。富山の文化、産業（魚・林・農）への提言、研究、技術支援、文化の振興、大学・研究機関への助成（開発費用や研究助成金制度）、特色ある産業展開により、優秀な学生や若者の就職機会が増え、他県からの流入も期待できると考える。
5.	<p>人口の増加・定着に結びつく多様な企業の立地</p> <ul style="list-style-type: none"> 関東、関西方面への新幹線の整備により短時間の広域移動が可能になる事から、企業の誘致を行い、企業立地の促進を図る。富山の特性をアピールし、県外から人の集積、若者の定着につなげていく。 企業の立地や若者（高齢者も）の起業チャレンジ支援・ベンチャー企業の育成などを図り、人口の流出を防ぐ。 耕作放棄地を中心に整備されることが多いように見受けられる。水資源や環境保全も含めて、計画的な開発が必要と考える。 北陸新幹線の開通により、利便性や交流人口は確かに増大している。しかし、乗車人員の3倍は上越一糸魚川地区での比較であり、その経済効果の大半は金沢に流れていることは明白。よって、富山では観光面のメリットはあっても中心市街地、特に商業面でのメリットは少ない。観光面の様々な整備やサービスは必要だが、もっと定住人口が増える基本的政策（学校・工場・政府系機関などの誘致）が必要ではないか。まちづくりも人の集う地域の魅力が必要。
6.	<p>中小・小規模企業の総合的な支援体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ものづくり県とやま」を維持・強化していくためには、中小企業の振興が不可欠の要素であり、特に、現在「チーム富山」の掛け声の下で進めている企業間連携を確実に実現し、より付加価値が高く、より高機能な商品提案を目指さなければならない。さらに、その実現のためには、中小企業の製造革新が必要で、見える化・IT化を推進し、効率化を図り、あたかも一つの会社のように企業連動できるIOT基盤の構築を推し進める必要があると考える。
10.	<p>雇用の確保と人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内での雇用の確保や安定した経済力は定住にもつながり、若者の自立促進にもプラスとなる。人材の育成は、富山の活力を生み出し、人が人を呼び、すべての事柄の原動力になる。 県外の大学に進学した若者が故郷の富山に戻って就職する施策を積極的に実施してほしい。また、富山県内の大学、短大に進学した学生が県内に就職する施策も同時に進めてほしい。
14.	<p>森林の整備と林業の振興、県産材の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材価格の安定が重要である。
19.	<p>高速道路、幹線道路から生活道路までの道路ネットワークの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、都会に住む人から富山は便利で近いと思ってもらうことが重要と考える。
23.	<p>選ばれ続ける観光地づくり ー海のあるスイスを目指してー</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光地の施設、資源のグレードアップを図るために、適切な資金の支援、技術、情報の供与を行うべきと考える。

24. うるおいのあるまちづくりと中心市街地の賑わいの創出

- ・新しい美術館の完成によって、環水公園周辺の開発が大いに進み、明るく楽しい“憩い”の場で母や子、また、家族やカップルが気軽に出かけ空間・時間を共有してもらいたい。
- ・北陸新幹線の開通により、利便性や交流人口は確かに増大している。しかし、乗車人員の3倍は上越一糸魚川地区での比較であり、その経済効果の大半は金沢に流れていることは明白。よって、富山では観光面のメリットはあっても中心市街地、特に商業面でのメリットは少ない。観光面の様々な整備やサービスは必要だが、もっと定住人口が増える基本的政策（学校・工場・政府系機関などの誘致）が必要ではないか。まちづくりも人の集う地域の魅力が必要【再掲】。
- ・高齢者が車を手放しても不自由なく移動でき、買い物に困らず文化的な生活ができるように交通網の再整備が必要である。中心市街地に現在の郊外機能を集約させて、街として活気が生まれればおのずと観光客も足を伸ばす場所となるのではないか。強引な都市再開発ではなく、個人の店を大切にしてほしい。地権者の方に理解してもらっていい街になってもらいたい。
- ・高岡市でも中心市街地の再生は喫緊の課題である。行政の支援と同時に大切なのは、そこに住んでいる人の意識改革である。行政頼みではなく、自分のまちは自分で復活させるという覚悟を持った人を育てることが重要である。

26. 「立山・黒部」の世界ブランド化と戦略的な国際観光の推進

- ・“ものづくり”への投資はグローバル競争の中で埋もれサunkコスト化する可能性が高いと考える。北アルプスを中心とした観光資源を最大限活用すべく、岐阜・長野・新潟との連携を深め、協同で開発していくことで、経済的な投資効果を高めることができるのではないか。
- ・富山県の雄大な自然を海外にPRし、外国人観光客を呼び込む。

28. 観光人材の育成とおもてなしの心の醸成

- ・観光の重要性、地域への貢献を理解し、ひいては県の観光力アップのために、将来的に小学校レベルからの「観光教育」の実施を検討いただきたい。

30. 富山のブランド力アップに向けた戦略的展開

- ・県外でとやまをアピールできる広報ツールを利用したプロモーション活動。特に種類を絞り、シンプルかつインパクトの強いものが良い。
- ・少子高齢化・経済の低迷の解決には、富山のブランド力を更に磨きこみ、民間のパワーアップを図ることが必要と考える。

全般

- ・単に補助金を出すのではなく、投資的な要素を加味することも重要。例えば、空き家の店舗リフォームについて、補助を出すのではなく、投資とすれば、収益を上げる（県内経済活性化）ためのドライブがかかる。失敗してゼロになっても、結果は補助と同じではないか。

未来

2. 保育サービスの拡充など積極的な子育て支援

- ・初等教育の格差は都市部ほどではないが、0～2歳時へのサポートが不足していると考えられる。ひとりで悩む若い母親への支援を手厚くし、子育て環境に安定度が高まれば富山への移住も増えるのではないかと考える。

4. 子育て家庭の経済的負担の軽減

- ・少子化に対して経済的な支援が必要、シングルマザーとしての選択も可能になる程度の社会支援が求められるのではないかと考える。また、通学路の事故や水路等での事故等の防止対策も併せて実施することが必要と考える。

9. 子どもの可能性を伸ばす教育の推進

- ・少子化の上に、理系離れ・ものづくり離れが進み、将来の「ものづくり県とやま」の基盤自体が人材不足のために崩れ去るのではないかと危惧している。それ故、中学校・高校・大学までを対象に、工場見学・講師派遣といった「ものづくり教育」を体系的に構築・実施することが急務であると考えている。人材への投資は、将来のための重要施策と位置づけ、産学官金すべての機能を連携させ、実施すべきと考える。
- ・今の子供たちが、将来、理工系への進学を望むような環境づくりが必要である。
- ・県内の主要産業である医薬品製造等の発展のため、低学年から学習環境の見直しを行うべきでないか。

11. 大学教育の振興とコンソーシアム等の活性化

- ・大学と企業との連携を強化すべきである。
- ・高等教育の充実、連携が必要である。

14. ふるさとを学び楽しむ環境づくり

- ・富山に生まれた誇り、富山で学び働く喜びが実感できるよう、家庭、地域、学校、企業における様々な教育、支援などの取り組みを推進すべきである。

16. 県民が芸術文化の創造に参加し、交流する機会の充実

- ・県、マスコミ、民間団体の「三つ巴」の世界に類を見ない形で、芸術文化の振興が若い人の間にも深く浸透していくことを願う。

18. スポーツに親しむ環境づくりの推進

- ・冬期間は、気軽なスポーツの機会が大きく減少するとともに、子育て世代にとって子どもの遊び場の確保が課題であることから、全天候型の施設を増やし、冬期間のスポーツができる環境づくりを進めることが必要である。

21. 若者の自立促進と活躍の場の拡大

- ・富山の若者を最近見かけないので心配している。あぶれている子どもやニート、引きこもり等に対する支援が必要である。

22. 男女共同参画社会づくり

- ・若い意欲ある女性が県外で就職し、結果として若い女性が減っていく。若い意欲ある女性の職場を県内で増やすとともに、若い女性を引きつけるまちづくり、社会づくりが必要。富山県はものづくりが盛んで従来男性の仕事とされていた職場が多い。女性の側も固定観念にとらわれず、ものづくり職場へどんどん進出してほしい。
- ・（女性のサポートと県民マインドのチェンジ）富山県の女性の育児休業取得率は高い水準であるが、第1子の出産や子育てを機に離職した女性の割合は高く、「ママ」が働き続けるということの難しさがあると思う。県の取り組みとして女性の活躍を推進するための支援が増えていることは実感する。しかしその一方で働くママに家事や育児、介護など一方的に負担が増えているようにも思う。女性が輝くためのサポートは、まだまだ必要ではないか。必要なのは富山県の子育てへの「マインド」の変化であり富山ではやはり「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方が強く、男性が子育てに参加するのが普通だという考え方になること。そして子育てを社会全体で支える仕組みを作ることが必要ではないか。

未来	
22. 男女共同参画社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・職場の男性に対し、家事・育児・介護は自分たちの仕事でもあるのだという教育が必要ではないか。そのうえで、女性たちに仕事上の権限を与え、のびのび働いてもらうことが大切である。
24. 「くらしたい国、富山」の発信による移住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少なく、幸福度の高い県として「安全、安心、安定」のトリプルAとしてPRし、他都道府県からの定住を促す。
25. 自然や歴史・文化など地域の魅力のブラッシュアップと世界文化遺産登録の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県内の祭をブラッシュアップし、観光客を呼び込む。

安心	
4. 質の高い救急医療・リハビリ医療・在宅医療等の提供体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の中で医療体制が財政的な理由によって大きく変えられようとしている。現在の体制も理由があって形成されているものであり、財政的な理由のみで変更することはいないようにしていただきたい。
5. 健康寿命日本一を目指す総合対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・病気になりにくい体、健康づくり対策が必要。地域をベースに、身近な所で誰でもいつでも健康づくりに参加できる環境があればよい。
8. 地域包括ケアシステムの構築と共生社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を通じて共生社会を目指す。①障害者（車椅子、視覚、聴覚、精神、知的、発達障害）が防災訓練に参加し、障害の内容に対応した救助の声かけ、避難誘導の方法など実施要領に基づき訓練する。②この訓練を継続して実施することにより、誰でも障害者に対する災害時の対応が理解可能となる。③この訓練が地域全般に広がれば、日常生活の中で、困っている人を見かけたら気軽に声をかけて、安全誘導ができる。駅ホームでの転落防止など、日常的に差別の解消につながる。 ・地域共生社会は、ある程度の社会貢献意識がなければ成り立たないが、富山県民には「ボランティア」という言葉を嫌う傾向が強いように思える。「ボランティア＝無償」ではなく、貢献度合いによって支援した人のQOLもアップするような仕組みが必要だと考える。 ・社会保障環境が厳しくなっていく中で公民協働し、地域ぐるみで支え合う地域共生社会づくりにより、安心・安全な暮らしを保障することが必要 ・一人暮らしの方に対して、孤独死等が生じないように、介護等とのかかわり方を地域が一体となってお世話できるような体制を講じられないか。
9. 保健・医療・福祉の切れ目ない支援	<ul style="list-style-type: none"> ・富山型デイサービスで基準該当の部分（障害者・児）の加算がつかないところの補助金を考えてほしい。
10. 介護・福祉人材の確保のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場では職員確保が難しく、介護報酬が下がっているため経営が厳しく廃業しなければならない事業所が出ている。
11. 高齢者の介護予防と介護サービス、認知症対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・老人ホームの充実を図り、安心して老後を暮らせる仕組みが必要。

安心

14. 循環型社会・低炭素社会づくりの推進 等

- ・富山県は、「環境先進」面でのブランド化を目指すべきである。
- ・廃棄物として埋め立てられている中には、コンクリート塊や石炭灰など再利用できるものも多いので、循環型社会をめざし、民間の協力を得ながら安定型廃棄物を利活用して削減していくことが必要でないか。

18. 清らかな水資源の保全と活用

- ・豊富な水資源を活用したクリーンエネルギーの確保が重要。

20. 消防力や地域防災力の強化による防災・危機管理体制の充実

- ・いつ災害が起こっても対応ができる体制を確立することが必要である。また、県民も「自分の身は自分で守る」という意識を持つことが必要である。
- ・富山は災害自体の可能性が低いので、多大な設備投資より、いざという時に対応できる組織づくりが大切である。

21. 防災・減災、災害に強い県土づくり

- ・橋梁・トンネル、電力施設などの構造物の老朽化が進んでおり、維持管理体制の強化が必要であるが、十分な対応できない市町村もあることから、民間企業やNPO、市民の協力を得ながら、県が主導する体制づくりができないか。また、将来的には、使わない橋を選択する「減橋」といったことが必要となるのではないか。

22. 地震・津波対策、火山対策、原子力災害対策の充実

- ・一般家庭の耐震・免振の建物、構造物への支援を急ぐ。
- ・避難場所への周知徹底と防災訓練の浸透を図る。
- ・火山（立山）、津波・河川の決壊（神通川、常願寺川など重要河川のハザードマップを作成し、周知徹底）

24. 犯罪の減少と交通安全対策の推進

- ・夜の車道は暗く車の運転には細心の注意がいる。設置してある街灯は歩道の明るさを保っているが、車道側にまでは明るさが届かない。夜の街灯をもっと明るくするために自然エネルギーを活用した省エネ照明を取り入れ、数を増やし、夜の街を明るくし、防犯や生活の安全性にもつなげればよい。
- ・街なかや、公園等の公共機関の集まる場所（人なども多い場所）に防犯カメラの設置個所の増設が必要。犯罪・交通事故（ひき逃げ等）、テロ予防・抑止に役立ち安心安全の確保が可能と思われる。
- ・防犯対策として、防犯カメラ等の充実が必要である。
- ・自転車道の確保も重要。サイクリング人口が増え、レクリエーションや通勤・通学に自転車の利用が増加している。現在の自転車道路は狭く、安心・安全とはいえない。

25. 地域公共交通の維持活性化と新たな展開

- ・運転免許証を手放した高齢者は日常生活に不便を感じ、手放したことを後悔しておられる話を聞く。生活弱者を作らないためにも、生活交通の確保は高齢化社会において大切。
- ・高齢者がマイカーに依存しなくてもよい生活交通の確保
バスを使用して「居住する集落→病院→市役所→銀行→スーパー→居住する集落」のように交通が確保されるべき

26. 安全・安心で豊かな住環境づくり

- ・一般家庭の耐震・免振の建物、構造物への支援を急ぐ。

人づくり

テーマ1. 富山県や日本を担う子どもの育成

2. チャレンジ精神あふれる、困難にくじけない子どもの育成

- ・未来を担う子ども達の育成について、引きこもり・不登校・いじめなど様々な課題に対応できる人材の登用（育成）を行う。

テーマ2. 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進

4. たくましく成長するための支援と社会で活躍できる人材の育成

- ・少子化の上に、理系離れ・ものづくり離れが進み、将来の「ものづくり県とやま」の基盤自体が人材不足のために崩れ去るのではないかと危惧している。それ故、中学校・高校・大学までを対象に、工場見学・講師派遣といった「ものづくり教育」を体系的に構築・実施することが急務であると考えている。人材への投資は、将来のための重要施策と位置づけ、産学官金すべての機能を連携させ、実施すべきと考える。【再掲】

5. 若者の職業的自立や起業の支援

- ・富山で教育を受け、都市部で就職した若者が必ずしも成功するわけではない。都市部から戻ってきたとき再チャレンジできる環境整備をしておけば、おのずとUターン、Iターンが増えると考ええる。「若者の再チャレンジがしやすい県」にしていくべき。

6. 若者の社会の一員としての自立促進

- ・将来社会の一員として働き自立した生活ができる教育の充実（家庭、学校、地域において）を図る。
- ・若者の自立心を教育の中でも育みたい。

テーマ3. 女性の活躍とチャレンジへの支援

7. 女性が能力を発揮でき、安心して働き続けられる環境づくり

- ・若い意欲ある女性が県外で就職し、結果として若い女性が減っていく。若い意欲ある女性の職場を県内で増やすとともに、若い女性を引きつけるまちづくり、社会づくりが必要。富山県はものづくりが盛んで従来男性の仕事とされていた職場が多い。女性の側も固定観念にとらわれず、ものづくり職場へどんどん進出してほしい。【再掲】

テーマ5. エイジレス社会実現と「かがやき現役率」の向上

13. 元気な高齢者の就業・起業支援

- ・定年退職後の高齢者の方、体力的にも良好で、働く意欲のある方の活躍の場が必要。生きがい、働きがいを感じられる場の整備に取り組むべきではないか。

14. 高齢者の地域貢献活動の支援

- ・60歳以上の方には時間を持て余している人も多いと思うので、地域でのボランティア等の依頼を行えばよいのではないか。体や頭を動かすことで、ボケ防止にもつながる。

(全般)

- ・ふるさと、親を愛し、生きていくときに親や地域の人達に優しい言葉をかけたり、感謝を表現するような人づくりをしてほしい。
- ・次世代の社会づくりに不足するものが、今や、充分予想される状況に日本はあると思われる。次世代のために、どのような現状改革が必要か。とことん話し合いから始める必要がある。

県政運営の基本姿勢

1. オープンで分かりやすい県政

- ・ ややもすると情報が十分に県民に行きわたっていない。気軽にPCなどで情報を共有できるシステム作りが必要ではないか。

3. スピード重視の県政

- ・ 知事のすばらしいリーダーシップに大いに期待している、早く、的確な判断こそ現代にふさわしい指導者像である。

4. 現場重視で効率的な県政

- ・ これからは行政がサービスを直接提供するのではなく、民間等の創造工夫を引き出していく仕組みや仕掛けが大事だと思う。プレーヤーではなく、マネージャーになることで、新しい事業や産業が生まれる可能性があり、また行財政改革にもつながる。
- ・ 業務の効率化（特に土木系）
①書類や起案の押印者の削減 ②土木系職員の配置転換の頻度の減少（専門技術の修得による業務の効率化、新技術の修得などの効果） ③発注金額・工事難易度・入札業務量のバランスを考慮した入札制度の構築

5. 市町村、地域の自立と支援

- ・ 市町村職員の資質向上支援、圏域毎の市町村連携支援を推進し、住民に直結した市町村行政による住民サービスの向上を図る。県のリーダーシップに期待する。